立命館大学法学部
同窓会報
存心館
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/law/law-alum/

発行・文責：立命館大学法学部同窓会
発行住所：〒603－8577
京都市北区等持院北町56－1
立命館大学法学部事務室内
電　　話：075－465－8175（直）
Ｅメール：law-alum@st.ritsumei.ac.jp

2017年6月25日(日) 同窓会 第18回総会・懇親会・講演会 開催

東山　篤規 氏

立命館大学文学部 名誉教授

今回の講演会は、去る2016年９月に、「光学的・身体的変換視野の効果（股のぞき効果）」に関する研究で、第26回イグノーベル賞知覚賞を受賞された、文学部名誉教授の東山篤規先生を講師にお迎えして、「股のぞきの研究」と題して開催されました。

講演では、豊富な実験データをグラフや写真にまとめて、とても分かりやすくご紹介いただきました。

➡ 講演会詳細は次頁をご覧ください

総会・懇親会

講演会に続いて開催された総会は、鬼籍に入られた方々へ、参加者全員の黙祷で始まりました。続いて吉田美喜夫総長の挨拶が行われ、各種報告、新役員人事案を含む各種議案が承認されました。

懇親会では、開会宣言の後まずは全員で校歌の斉唱。続いて宮井雅明法学部長による乾杯挨拶があり、和やかに懇親会がスタートしました。今年も、進路選択に向けて各ゼミで中心的な役割を担う現役学生（プレイスメント・リーダー）の参加がありました。お馴染みの景品抽選会の催しが行われ、今年出演の学生団体は「立命館大学応援団チアリーダー部」で、その華やかで力強い演舞には会場が一層盛り上がりました。チアリーダー部も共に応援歌グレーター立命を肩を組み合って全員で歌い上げ、懐かしく楽しいひと時に名残は尽きない中で閉会となりました。

講演会

東山先生は、「触覚と痛み」と「空間知覚」を研究テーマに、長年にわたり人間の感覚・知覚に関する研究を行ってこられました。

講演の冒頭、私たちは日常「網膜軸」「重力軸」「視環境軸」という「３つの軸」を前提にものを見ている、と説明されました。この条件のなかで、同じ長さの棒が「T」字型に組み合わさっていた場合、縦が長く見えるか、横が長く見えるか。これは、錯覚のクイズなどでよく見かけると思いますが、人の目には縦のほうが約30%長く見えるのだそうです。これを「垂直水平錯視（すいちょくすいへいさくし）」といいます。

股のぞきの研究

例えば斜めにしてみたり、ひっくり返してみたりと、最初に説明のあった「３つの軸」の条件を変えると、見え方も違ってくるのではないか？こうした『問い』から、この研究はスタートしました。

実験を重ねていくと、軸の一部の関係が一致しているときには残っていた錯視が、すべての軸の関係が離れてしまうと錯視が消えてしまう、という研究結果が得られたのだそうです。

風景を逆転してしまったら…いよいよ、ここから「股のぞきの研究」に迫っていきます。３つの軸の関係を離す、これを体で実践したのが、まさに「股のぞき」だったのです。

「股のぞき」で見える景色には、錯視が消えることに加え、色が鮮やかに見える、平面のように奥行きがなくなるように見える、という特徴があることがわかってきました。これは、19世紀の文献にも似たような記述が残っており、日本でも、戦中から戦後にかけて似た研究がされていました。

これらの効果を観光資源に生かしたものの代表的な事例が、国内では「天橋立の股のぞき」というわけです。海外にも、似た事例があることもご紹介いただきました。

桂離宮の庭園に“天橋立”がシンボリックに表現されていることなど、この他、ご専門の知覚の研究の枠を超えて、日本の公家文化に至るまで、幅広いお話をお聞かせいただきました。

また、「存心館」の縦横の比率を変えた図面をいくつかご用意いただき、どれが正解かというクイズも。参加された皆さんの多くは、やや縦長に調整された図面を選ばれました（つまり、不正解）が、これも「錯視」のなせる業だったようです。

この研究の成果が、いつの日か身近なところで応用されていくこともあるかと思いますが、その折には、東山先生の講演を思い出していただければ幸いです。

今回から、「人」にスポットを当てたコーナーを設けました。「恩師はいま」では、定年退職された先生の中から、「輝くひと」では、各方面で活躍をしている同窓生にスポットを当ててみました。学生時代や、身近な学友のことを思い出していただくきっかけになれば幸いです。

第１回は、中井美雄先生と、伴野仁美さんにご登場いただきました。

恩師はいま

INTERVIEW

中井　美雄 先生

1963 ～ 1997 年在職、法学部長、図書館長などを歴任、名誉教授

――ご無沙汰しております。近況はいかがでしょうか？

今は特に仕事はしておらず、散歩や通院が日課です。一時期、体調を崩したこともありましたが、最近は状態も良くなってきました。

――それはよかったです。在職中の思い出や、特に印象に残ったことをお聞かせいただけますか？

専門は民法で、とりわけ「損害賠償法」に比重をかけて研究をしてきました。ちょうど、新幹線や航空機の騒音などの公害が社会的な問題になっていた時期で、単に損害賠償ということにとどまらず、不法行為的な事象が起こりかけている段階で差し止めようという請求権をテーマにしたのです。これを「差止請求権」として認めるには、理屈付けがなかなか難しかったですが、ひところは多くの方がこのテーマの研究に取り組まれたこともあり、いろいろな議論ができて面白かったですね。

――在職中は法学部長などを務めてこられました。

学部長の時は、教授会の先生方がよく支えてくれました。「立命館」は、組織的に議論もするし、柔軟性もあるし、本当に熱心な大学ですね。

――ゼミ同窓会の活動などはいかがですか？

わたしは行けなかったですが、旅行会を開催してくれるなど、集まる機会をつくっています。「教員ついていかなくて大丈夫か？」と、ちょっと心配をしていました（笑）。OIC の見学会もしましたよ。

――法学研究と教育に心血を注いでこられた先生の姿が、私も印象に残っております。これからの法学部や、同窓会へのメッセージがいただけましたら幸いです。

学生が力を持つ、力をつける－これは学力を含めてですが－ということが、ひいては学部や大学の力になっていくのではないかと思います。同窓会も、そんな学生を育てるために力を貸していくとよいのではないでしょうか。

輝くひと

伴野　仁美 さん

法学部（2011 年卒）・法科大学院（2014 年修了）、愛知県東海市 熊野神社 権禰宜

学部時代は、法哲学平野ゼミと、4 回生からは刑法松宮ゼミで学びました。平野ゼミでは、「社会で活躍する女性の地位向上を目指して」をテーマに「公私二元論」に関する論文を執筆したのですが、その過程では女性弁護士が多く勤務する事務所でのエクスターンシップ※や、働く女性の生の声をインタビューする機会に恵まれました。こうした経験が、自分自身の進路決定の際にも役立ちました。

卒業後は、法科大学院で学びました。現在、法曹を目指す傍ら、実家の神社の神職としても活動をしていますが、ここでも京都で指導を受けた茶道の経験などが生きています。

立命館大学の法学部は、自ら望んで主体的に行動すれば、大学にいながらにして大きなチャンスを掴むことができる場所でした。同窓会の企画や活動を通して、その可能性の幅をもっと広げ、伸ばし、高度な専門性と多様な見識を備えた地球人を輩出する法学部であることを期待します。

※教育機関の学外で実務の研修を積むこと

「恩師はいま」「輝くひと」の詳細版を、同窓会 Web サイトに掲載する予定です。そちらもご覧ください。

ゼミ同窓会

ゼミ同窓会開催報告（2017年2月～7月実施分
同窓会事務局に実施報告のあったもの）

法学部竹濵会　会員交流会

2017年２月18日（土）
立命館大学大阪いばらきキャンパス／20名

第41回立命館大学法学部商法塩田ゼミOB会

2017年７月１日（土）
京都ホテルオークラ／29名

法学部同窓会の「ゼミ同窓会への活動補助制度」について

法学部同窓会では、法学部校友のネットワークの発展、相互交流の活発化の一助として、「ゼミ同窓会への活動補助制度」を設けていますので、ぜひご活用ください。詳しくは、同窓会 Web サイトをご覧ください。

また、ゼミ同窓会の開催案内については、随時、同窓会 Web サイトに掲載しています。会報『存心館』への開催告知を希望される際は、法学部同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。次回の発行予定は 2018 年 3 月です。次号への掲載についての、掲載申請締切は 2018 年 1 月 19 日（金）です。

学部長だより ＜法学部学生の今＞

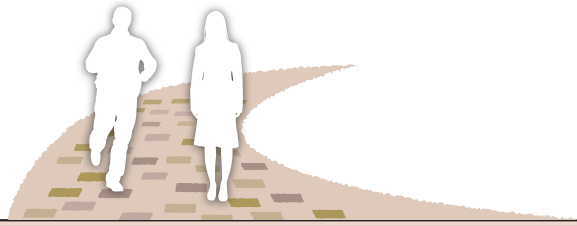
法学部長の宮井です。今回は、法学部の学生さんの気質についてお話しします。

まず、よく言われるのは、法学部の学生さんは、他学部の学生さんと比べて、礼儀正しく、まじめで、勉強熱心だということです。これは、他学部の先生が法学部で教えられたときにほとんど必ず言われることです。たとえば、法学部の学生さんは、授業中の私語が少なく、熱心に授業を聞いており、授業後の質問も多いということです。あくまでも他学部との比較の上での話ではありますが、法学部が学びの作法についてやかましく指導してきたのは事実なので、これは、法学部教育の成果といってよいでしょう。

しかし、長所は短所の裏返しでもあります。法学部の学生さんは、まじめである反面、自分の限界を超える大胆な行動に出ることが少ないように思われます。また、民間企業の採用面接の場面では、法学部の学生さんは、理屈を重視するあまり、結局のところ何を言いたいのか、何をしたいのかが分からないという評価が一部にあるようです。

もちろん、これは一般的な印象論にすぎず、法学部の学生さんの中にも、将来政治家になって日本を洗濯したいという、大胆で頼もしい人もいます。とはいえ、この印象論は、ある程度、法学部教育の弱点を反映しているように思われます。確かに、法学部の授業は、細かい条文解釈に偏りがちで、大局的に物事を捉える視点や態度を育むものになっていないかもしれません。また、自分の考えを表現豊かに説明する力を育む授業は少ないかもしれません。

ここまで書いてきて、昔から法学部の学生像として語られてきたことをただなぞっているだけだということに気づきました。結局、法学部の学生さんの気質は、よきにつけあしきにつけ、昔からあまり変わっていないのかもしれません。



同窓会企画実施報告

■お花見会

2017年４月９日(日)
京都 宇治川

■鵜飼見物会

2017年7月22日(土)
京都 嵐山

これからの同窓会

■忘 年 会　2017年12月9日(土)
会場：がんこ高瀬川二条苑
時間：17時開宴予定

■お花見会　2018年4月
企画詳細は決まり次第、同窓会Webサイトに掲載します

◎存心館改修記念
2018年総会　　衣笠キャンパス開催

◎法学部同窓会第20回総会記念
2019年総会　　東京開催

◎法学部同窓会創立20周年記念　学園・法学部創立120周年
2020年総会　　京都開催

お申し込み、お問い合わせは立命館大学法学部同窓会事務局へ

電話 **075-465-8175**（法学部事務室内）　平日 **9**時～**17**時**30**分

同窓会企画の詳細や申し込み方法は、
同窓会 Web サイトに随時掲載していきます。

立命館大学法学部同窓会　検 索